

## 引用文献

- 芥川修, 西洋孝, 高橋千絵他 (2006). 自然分娩と気圧の関連性. 産婦人科の実際, 55(3), 543-548.
- Burns, N., Grove, S. K. (2005). バーンズ&グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用—. 黒田裕子・中木高夫・小田正枝ら訳 (2007). エルゼビア・ジャパン. 586.
- Burvill, S. (2002). Midwifery diagnosis of labour onset. British Journal of Midwifery, 10(10), 600-605.
- 平田良江, 名取初美 (2009). 分娩第 1 期における産婦の取り組みの実際. 山梨県母性衛生学会誌, 8, 62-66.
- Holloway, I., Wheeler, A. (1996). ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで 第 2 版. 野口美和子・伊庭久江・今村美葉ら訳 (2006). 医学書院. 112.
- 堀内成子, 有森直子, 片桐麻州美他 (2001). JICA ブラジル母子保健プロジェクトとの協働—母性看護・助産学研究室における国際協働—, 聖路加看護大学紀要, 27(3), 26-34.
- 関西国際保健 ぼちぼち (2004). 勉強会報告書 JICA ブラジル母子保健プロジェクト「光のプロジェクト」からの学び—日本の開業助産師がかかわった良さ、評価の高かったわけを探る—. 関西国際保健 ぼちぼち.
- 北本佳文, 松尾博哉 (2003). 分娩第 1 期消化器症状と分娩経過の関連ならびにその発現に及ぼす心理的因子の影響. 母性衛生, 44(2), 315-321.
- Lazarus, L. S, Folkman, S. (1984). ストレスの心理学—認知的評価と対処の研究. 本明寛・春木豊・織田正美訳 (1991). 実務教育出版. 143-157.
- Lundgren, I., Dahlberg, K. (2002). Midwives' experience of the encounter with women and their pain during childbirth. Midwifery, 18, 155-164.
- 中村泉, 宇野美幸, 三浦悌二 (1987). 微弱陣痛の季節性と産婦の出生季節との関係. 医学と生物, 114(6), 357-359.
- 町浦美智子編 (2011). 助産師基礎教育テキスト 第 5 巻 分娩期の診断とケア. 日本看護協会出版会.
- 正岡経子, 丸山知子 (2009). 経験 10 年以上の助産師の産婦ケアにおける経験と重要な着目情報の関連. 日本助産学会誌, 23(1), 16-25.
- 正岡経子, 丸山知子 (2011). 産婦ケアにおける助産師の『語り』から経験知を抽出するナラティブ分析. 日本保健医療行動科学会年報, 26, 158-168.
- McNiven, P. S., Williams, J. I. & Hodnett, E. et al. (1998). An early labor assessment program: A randomized, controlled trial, Birth, 25(1), 5-10.
- 三砂ちづる (2001). 出産のヒューマニゼーション Projeto Luz (光のプロジェクト) の軌跡と学び. 助産婦雑誌, 55(4), 9-17.
- 毛利多恵子 (2001). 日本の助産婦ができたこと, これからできること. 助産婦雑誌, 55(4), 52-57.

- 岡村晴子(2001). 産婦の体温変動パターンによる分娩経過の特徴, 日本助産学会誌, 14(2), 48-58.
- 産科婦人科学会(2008). 産科婦人科用語集・用語解説集. 金原出版, 177.
- 竹原健二, 野口真貴子, 三砂ちづる(2008). 助産所と産院における出産体験に関する量的研究—“豊かな出産体験”とはどういうものか?—. 母性衛生, 49(2).
- 宇野美幸(1987). 産科異常と児および母の出生季節. 日生気象, 24(1), 17-22.
- Vaughn, S., Schumm, J. S. & Sinagub, J. (1996). グループフォーカスインタビューの技法. 井下理・田部井瞳・柴原宣幸訳(2002). 慶應義塾大学出版. 8.
- 渡邊淳子, 恵美須文枝(2010a). 熟練助産師の分娩期における判断の手がかり. 日本助産学会誌, 24(1), 53-64.
- 渡邊淳子, 恵美須文枝, 勝野とわ子(2010b). 熟練助産師の分娩第1期におけるケアの特徴. 日本保健科学学会誌, 13(1), 21-30.
- 渡辺かづみ(1995). 看護婦が患者の状態の変化を事前に<何か変>と察知するという事. 聖路加看護大学大学院看護学研究科修士論文, 18-49.
- 渡邊竹美, 遠藤俊子(2010). 助産師が行う非侵襲的観察による分娩進行に関する判断. 母性衛生, 51(2), 473-481.
- 渡邊竹美, 遠藤俊子, 小林康江(2011). 分娩第1期の進行を判断する助産師の経験的知識の可視化. 日本母性衛生学会誌, 11(1), 1-9.
- 矢島床子, 三井ひろみ(2007). フィーリング・バースー心と体で感じるお産. バジリコ株式会社. 5-58.
- 矢野忠(2007). 東洋医学シリーズ① 増補新版 女性のための東洋医学入門—自分でできるツボ療法. 日中出版, 15-25.
- 山田弥恵子, 加賀智美, 菅沼ひろ子(1990). 分娩後期に出現する産婦の『眠気』実態調査—分娩進行に及ぼす影響について考える—, 日本助産学会誌, 4(1), 15-19.
- 吉田安子(2001). 初産婦の分娩期に出現する嘔吐と分娩進行との関連. 日本助産学会誌, 14(2), 28-38.
- 吉村正(2003). お産! このいのちの神秘. 春秋社. 17.